



名古屋グランパス

食を通じて笑顔つながる・生まれるスマイルBOX事業 1/2

愛知県は全国有数の農業県でありながら、野菜摂取量が全国でも少ないという課題を抱えています。クラブとして課題解決に寄与できるよう、ホームタウングループには管理栄養士が在籍しており、講演会等を中心に継続的に食育の活動に取り組んでいるとともに、新型コロナウイルスの影響が多大に出ているひとり親家庭を対象としたフードドライブの取り組みを今シーズンから始めました。ボランティアや企業と連携し、想いをこめて企画から梱包まで行い、ひとり親家庭に食品やマスク、クラブのグッズを詰め込んだスマイルBOXを配布しました。



活動場所 豊田スタジアム、愛知県母子寡婦福祉連合会



協働者

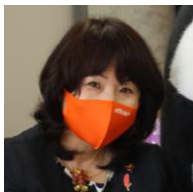
企業、NPO、行政、
グランパスボランティア

協働者名

グランパスボランティア、愛知県母子寡婦福祉連合会、
認定NPO法人セカンドハーベスト、
株式会社パナソ



協働者の声 愛知県母子寡婦福祉連合会／山本 廣枝 氏



子ども達の憧れの名古屋グランパス様のフードドライブ活動と当法人スマイルBOXの食支援の連携は、経済・生活面で辛い思いをしている多くのひとり親家庭に明るい笑顔と元気を届けることが叶いました。このSDGs活動は、「気に掛けてもらえ、辛い生活でも前向きになれた。」「笑顔が溢れた。」等の声に繋がりました。



活動詳細情報

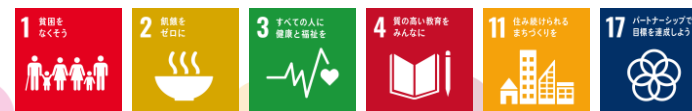
1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)

カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





名古屋グランパス

食を通じて笑顔つながる・生まれるスマイルBOX事業 2/2

Story

コロナ禍が続く2021年も終わりに近づいた頃、多くの方の様々な想いが込められた1つの箱がひとり親家庭に送られました。スマイルBOXと呼ばれるその箱にはクラブやサポーターからの寄附で集まった食品やマスク、クラブのグッズが梱包されており、約300のご家庭に笑顔が届けられました。スマイルBOXの連携はシーズン前にボランティアさんから、フードドライブを行いコロナ禍において日常生活に多大な影響が出ているご家庭に届けたい、とお話をいただきことから始まりました。クラブでは継続して食育に取り組んでおり、また愛知県の家庭での食品ロスは年間約21.5万トンと推計され、



「もったいない」を子ども達の「笑顔」につなげたいと考えました。フードドライブはホームゲーム2試合で行い、1試合は雨の中での実施ではありましたがボランティアの方々がPOPを持ちながら来場者に丁寧に説明してくれたおかげもあり、合わせて150組以上の方から寄附をいただきました。アカデミーの選手からは学校で習ったけど実践するのは初めてということで家族で話し合い協力してくれた選手もあり、クラブの未来を担う選手達にも良い経験となりました。またボランティアの方々とはフードドライブの勉強会を開催し、その主旨や内容を共有した上で当日のブース運営から梱包まで一緒に行いました。梱包は地元企業とも連携し、寄付してくれた方の想いも背負って作業を行い、子ども達が喜んでくれる組み合わせを考えながら詰める等、丁寧な作業を心がけることで、自身の活動がホームタウンの笑顔につながることをより感じることができました。様々な方の協力の下、梱包された品々は各家庭に配布され、「1人じゃないという気持ちになれた」「届いたときの子どもの顔が素敵なものだった」等、暖かいお言葉をいただきました。



今後も、こうした活動を継続して取り組み、食を通してホームタウンに元気と笑顔をお届けできるよう活動していきます。